

六論会を代表して 75 歳以上の医療費窓口負担について原則 1 割負担の継続を求める陳情に反対する立場で討論します。

私自身高齢者の仲間入りをして、当然のことながら医療費の自己負担については 1 割負担のほうが良いと思います。

しかし、団塊の世代が後期高齢者となり大幅な人口増、医療費の高騰を考えたとき、支え手となる現役世代の人口減、負担のさらなる増大を看過することはできません。後期高齢者医療制度を持続可能なものにするためには、これを支える現役世代の理解を得ることが不可欠であり、有病率の高い高齢者に必要な医療が確保されることが優先されるべきであり、窓口負担割合の見直しにより必要な受診が抑制されないようにしなければなりません。

また、この負担割合の見直しには配慮措置として世帯の所得の状況等に応じて、外来受診の負担増加額について、月 3,000 円以内として、急激な負担増加を抑制するための施行後 3 年間の経過処置があります。このことにより、現役世代に負担の増大を一定程度抑えることができ、一方、高齢者の負担は増すものの一定の期間配慮措置が講じられ、負担軽減されています。

現在のような厳しい状況の中で、社会保障制度における世界に冠たる国民皆保険をいかに守り、次世代に引き渡すかということが重要であり、このためにも一定以上の収入の高齢者については窓口負担の増にはなりますが、必要であると考えこの陳情に反対します。